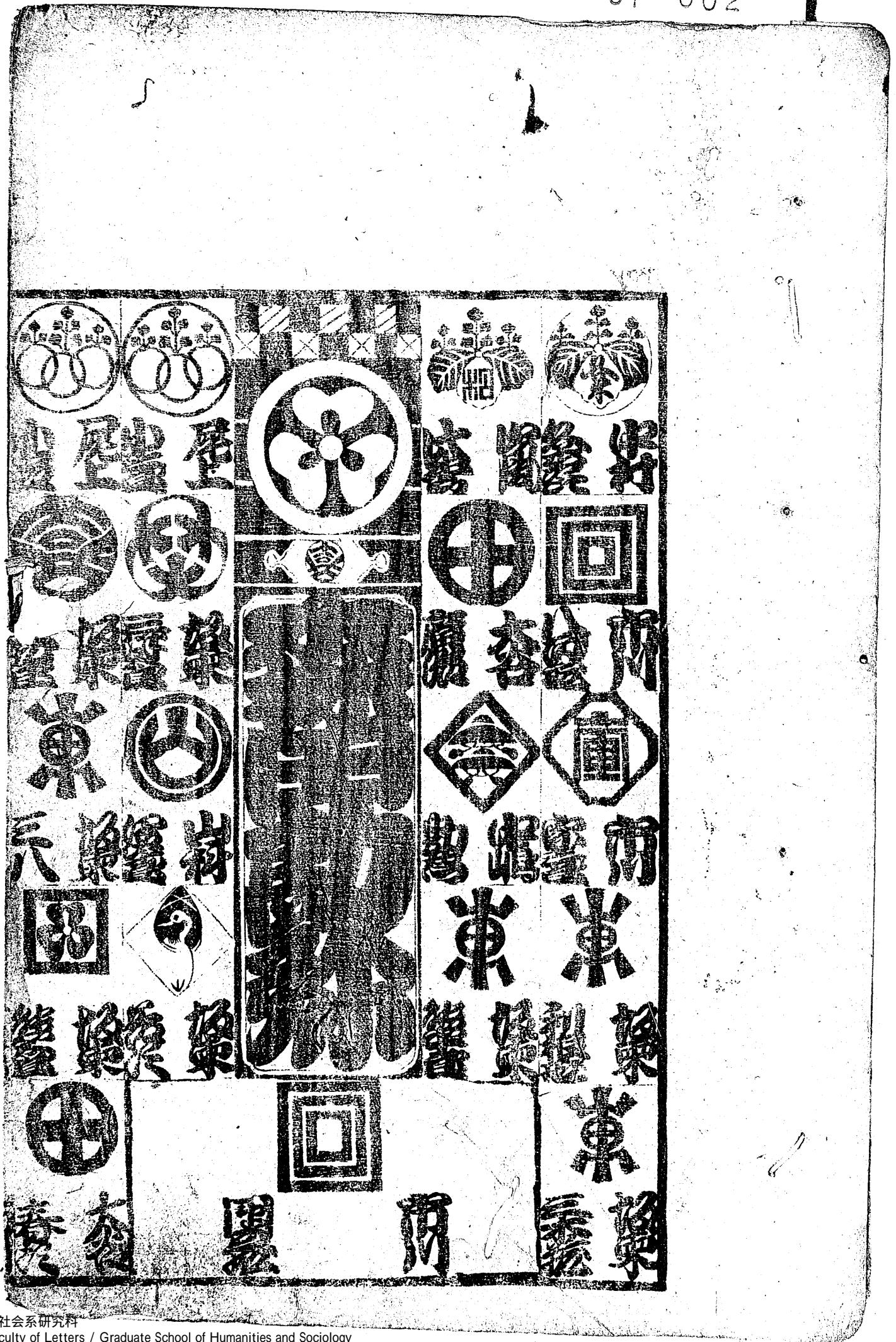


07-002

近世 22.7-07-002





傳昌理

羊常客羊也矣

卷三

同九

卷之三

然地の引氣をも
失利事す。之
自高の内侍
時行が毒を後
之の吹きそよぎのる
花風を自高
莫利の園を
菖蒲節刀云れ
立翁年共方卷七
大度公
本作や大作
御因より貞
河内多喜源
重守幕席深云
此の文曰立翁
細川たち放教を
御弟の奴宣納年
万葉の小説本房は
御田の園古
修復塚モ原
厅岩山道廣是像
色也。附

乙巳
初
午

卷之三

卷之三

大東義美

市川登義
市川登義
市川登義
市川登義
市川登義
市川登義
市川登義
市川登義
市川登義
市川登義

甘利の後流
松谷川の王川
重慶の松川
篠崎村の市川
佐原の久良
さや子の横川
三木の市川
大倉度波
坂東又九郎

栗生吉兵衛
凡生利友保
善女を志す
曰 おこの
刀の名を栗生

布川
山千
移木
山絆
千布

便利車一云
蘇州松江嘉定之
高橋橋子洋泰
女馬士哥

次村隱
市川深久
尾上小三
津鴻都

卷之三

神也

卷之三

卷之三

— 10 —

卷之三

正りが故にあと
附行と盡る。後
此の利害代
物の事は、一員
總務事務局より
總務事務局より
總務事務局より

布川登志
尾上小喜
津村義治
中治和吉
市川八百
角川武
坂東彦
大谷廣
坂東又九年

天明
辛巳
己未

座元
若太夫
狂言作考

來集正直

山東布政使司

卷之三

木板

卷之三

卷之三

十一

卷之三

東京大学文学部・人文社会系研究科

University of Tokyo Faculty of Letters / Graduate School of Humanities and Sociology

東京大学文学部・人文社会系研究科

University of Tokyo Faculty of Letters / Graduate School of Humanities and Sociology